

3. ハルニレ種子からの育苗日誌（証明書の裏付けと育苗方法）

□平成 26 年 5 月（2014）

新渡戸稲造夫人メリー氏より寄贈のハルニレは、植樹後 109 年が経過し、「老木」となったので、後継樹を育成するための種子採取が始められたことを知る（農学部か本部によるものか）。

写真：北大機関が始めた本格的な種子採取

写真：採取ネット下方の薄黄色がたくさんハルニレ種子



□平成 26 年 5 月～6 月

これに触発され、同様に、ただし「地上に落下している」種子を採取し、実生からの育苗を無謀にも企てる（いづれあわよくば恵迪寮同窓会の事業の支援になるかも）。

写真：種子採取ネットの下の地面のハルニレ種子

写真：ピートモス（泥炭マット）に播種された種子



□平成 26 年 8 月：播種後、2 ヶ月のハルニレの若葉
ピートモス板で発芽したのを小さなプランターへ移す。

写真：2014.08.09、玄関風除室内

□平成 27 年 7 月：播種・発芽後約 1 年

苗の生育状況に合わせて、順次ひとまわり大きなプランターへ移植していく（3 段階の大きさのプランターが確認できる）。

写真：2015.07.20、庭

□平成 28 年 9 月：播種から 2 年目の秋のハルニレと冬越し

この期、初冬になると葉を落とす。毎年、路地で越冬させるが、雪による枝折れを避けるため、苗をプランターごと横に寝かせ、凍結を緩和させるため雪をかけ断熱する。

写真：2016.09.22

□令和元年 5 月

雪が解け、今年も芽吹き始めたハルニレ、（一社）恵迪寮同窓会総会の記念としての出番を待つ。手前の白いプランター及び右後方のひとまわり小さな黒いビニールプランターの苗が総会時に提供されたものである。

大きめのプランターに移植せず肥料も施肥しなければ大きくはならない（本育苗に際しても施肥はしていない）。

写真：2019.05.05

